

2020年度 第2回 九大本番レベル模試 国語採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A項

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B項

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。
- C項 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。
- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

* 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「…とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

* ただし、「ことである」などの表現も「こと」「など」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もあります。その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

- 3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。
- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
 - b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
 - c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
 - d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

- 4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

2020年 第3回 九大本番レベル模試

教・法・経 第1問 (60点)

一 評論文 (教・法・経学部) (60点)

問1 9点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

グローバルで開かれた人間社会を作ろうとすると 逆に閉じたものに繋がり外部との対立

が強まるという パラドックスが生じ、

A③○1点

X〈逆説⇕矛盾を含むこと〉○1点

A④○1点

それを脱しようとして、

B①○1点

「地球」に行き着くことも、

B②○1点

B③○1点

地球を超えたコミュニティを創造することも なかったこと。(9点)

Y〈逆説⇕矛盾を含むこと〉○1点

【構造点】

・Xは、条件A内で、A①とA②が〈矛盾〉する要素となってA③を構成するという、〈逆説⇕矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、A①、A②、A③の要素がそろっていれば、この構造が成立しているとみて1点加点。

X〈逆説⇕矛盾を含むこと〉 A①+A②+A③ ○1点

・Yは、傍線部を、〈矛盾〉する二条件A、Bに引き裂いて説明する、〈逆説⇕矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとなして1点加点。

Y〈逆説⇕矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士において、また各条件内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「グローバルで開かれた人間社会を作ろうとすると逆に閉じたものに繋がり外部との対立が強まる」というパラドックスが生じ、それを脱しようとして、」(4点)

※ 傍線部を説明するための一方の条件。

① 「グローバルで開かれた人間社会を作ろうとすると」の要素に1点

○ 「グローバルでオープンなコミュニティを作ろうとすると」「グローバルで開かれた社会をつくろうとすればするほど」などでも可。

× 「グローバルで開かれた人間社会を作ろうとする」のニュアンス成分が入っていないならば×0点。

② 「逆に閉じたものに繋がり外部との対立が強まる」という」の要素に1点。

○ 「反対に閉じたものとながり、外部との新たな対立が生まれるという」「却ってクローズドなものにつながり外部との対立が強化されるという」などでも可。

× 「逆に閉じたものにつながる」「外部との対立が強まる」の二成分がそろっていないならば×0点。

③ 「パラドックスが生じ、」の要素に1点。

○ 「パラドックスを生み、」「逆説が生起し、」などでも可。

× 「パラドックス」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

④ 「それを脱しようとして、」の要素に1点。

○ 「そこから脱出しようとするが、」「それを克服しようとして、」などでも可。

× 「それ(非パラドックス)を脱しようとする」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

B 『地球』に行き着くことも、地球を超えたコミュニティを創造することもなかったこと。』(3点)

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 『地球』に行き着くことも、』の要素に1点。

○ 『地球』にまで到達することも、『地球』という次元にいたることも、『など』可。

× 『地球』に行き着く』のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

- ② 「地球を超えたコミュニティを創造することも」の要素に1点。
- 「地球を超越したコミュニティを創り出すことも」「地球を凌駕した共同体を創り出すことも」などでも可。
- × 「地球を超えたコミュニティの創造」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ③ 「なかったこと。」の要素に1点。
- 「起こらなかったこと。」「実現しなかったこと。」などでも可。
- × 「否定」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問2 7点

(模範解答例)

A ○1点

ある種の村おこしは、

B ○1点

グローバルかナショナルかの対立を越え、

C ①○1点

C ②○1点

C ③○1点

グローバル化して無限に広げるのではなく、

村という場所に境界を限り、

狭める方向性

X 〈分析〓分けること〉 ○1点 Y 〈分析〓分けること〉 ○1点

を重視していること。(7点)

【構造点】

- ・ Xは、条件C内で、C①と〈C②+C③〉の〈notP〜butQ〉の構文を構成する〈矛盾〉しない二要素に〈分析〓分けること〉する構造への評価である—〈notP〜butQ〉は、例えば〈男じゃないよ、女だよ〉のように否定の成分(not)が入ることによって、〈男じゃない〉≠〈女〉となって〈矛盾〉しない二要素に〈分析〓分けること〉する構造を構成する。ちなみに「」は、〈notP〉〓C①、〈butQ〉〓〈C②+C③〉である—ここではC①があり、〈C②、C③のいずれか〉があれば、この構造の骨組みが成立しているのみならず1点加点。

X 〈分析〓分けること〉 C ①+〈C②、C③のいずれか〉 ○1点

- ・ Yは、傍線部を説明すべく、条件Aを、〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉する構造への評価である—この場合、条件Aを、大枠で、〈notP〜butQ〉の構文を構成する二条件B、Cに〈分析〓分けること〉する構造をみる「と」もできる。〈notP〉≠B、〈butQ〉≠Cである。「」では、条件A、Bがあり、条件Cの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているのみならず1点加点。

Y (分析Ⅱ分けること) A+B+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件C内では要素同士においても、原則的に部分採点可能とする。(5点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「ある種の村おこしは」(1点)

※ 傍線部を説明するための話題提示の条件。

○ 「ある種の村おこしなどは、」「村おこしのある種のものは、」などでも可。

× 「ある種の村おこし」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

B 「グローバルかナショナルかの対立を越え、」(1点)

※ 傍線部を説明するための一方の(「not」)条件。

○ 「グローバルかナショナルかの対立を無効化し、」「グローバルとナショナルの対立を無意味化し、」などでも可。

× 「グローバルとナショナルの対立の否定」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

C 「グローバル化して無限に広げるのではなく、村という場所に境界を限り、狭める方向性を重視していること。」(3点)

※ 傍線部を説明するための他方の(「but」)条件。

① 「グローバル化して無限に広げるのではなく、」の要素に1点。

○ 「グローバル化を無限に拡大するのではなく、」「一方的にグローバル化を押し進めるのではなく、」などでも可。

× 「無限のグローバル化の否定」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

② 「村という場所に境界を限り、」の要素に1点。

○ 「村を境界として限定し、」「村を場所的境界として限定し、」などでも可。

× 「村(という場所)を境界として限定」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。境界が「村」であることが必要。

③ 「狭める方向性を重視していること。」の要素に1点。

○ 「狭める方向に重点を置いていること。」「狭める方向性が重要だとしていること。」などでも可。

× 「狭める方向性の重視」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

問3 9点

(模範解答例)

A ○1点

ホモ・サピエンスは

B ① ○1点

B ② ○1点

性の対象に関して余り区別しなかったために 生物学的に一種になる一方で、

C ○1点

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 ○1点

近親相姦の欲望を持ち、

D ① ○1点

D ② ○1点

D ③ ○1点

新奇さや異種に向かったり、 近親者に向かったりする両極があるという、 人間以外の生

物には認められない特徴を持つから。 (9点)

Y 〈総合〓まとめること〉 ○1点

【構造点】

・ Xは、傍線部の理由説明をすべく、条件Aを、〈矛盾〉する二条件B、Cに引き裂いて説明して行く〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、条件Bの要素が一つ以上、条件Cがそろっていれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加

X 〈逆説〓矛盾を含むこと〉 A+Bの要素+C ○1点

・ Yは、B、CをDに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは、条件Bの要素が一つ以上、条件C、条件Dの要素が一つ以上あれば、この仕組みの骨組みは成立しているとみなして1点加

点。
Y 〈総合〓まとめること〉 Bの要素+C+Dの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件B、D内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 「ホモ・サピエンスは」(1点)

- ※ 傍線部を説明するための主体明示の条件。
- × 「ホモ・サピエンス」の成分が入っていないなければ×0点。

B 「性の対象に関して余り区別しなかったために生物学的に一種になる一方で」(2点)

- ※ 傍線部の理由説明をすべく、Aを説明して行く一方の条件。
- ① 「性の対象に関して余り区別しなかったために」の要素に1点。
 - 「性の対象を厳格に区別することをしなかったために」、「性対象の区別があまり厳しくなかったために」、「などでも可。」
 - × 「性の対象の厳格な区別の否定」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。
- ② 「生物学的に一種になる一方で」の要素に1点。
 - 「生物学的な一種化が進行する一方で」、「生物として一種になる傾向を強める一方で」、「などでも可。」
 - × 「生物学的な一種化」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

C 「近親相姦の欲望を持ち」(1点)

- ※ 傍線部の説明をすべく、Aを説明して行く、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。
- 「インセストの欲望を持ち」、「近親者への性的欲望を有し」、「などでも可。」
- × 「近親相姦の欲望」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

D 「新奇さや異種に向かったり、近親者に向かったりする両極があるという、人間以外の生物には認められない特徴を持つから」(3点)

- ※ B、Cをまとめて結論づける条件。
- ① 「新奇さや異種に向かったり」、「の要素に1点。
 - 「珍しさや異なる種に向かったり」、「見慣れぬ者や異質な種に向かっていったり」、「などでも可。」「新奇さ」「異種」どちらのニュアンスも必要
 - × 「新奇さや異種にむかう」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。
- ② 「近親者に向かったりする両極があるという」、「の要素に1点。
 - 「家族内部に向かったりする両極端を示し」、「近しい者に向かうという双極性を呈し」、「などでも可。」
 - × 「近親者に向かう」「両極」のニュアンスの二成分がそろっていないなければ×0点。
- ③ 「人間以外の生物には認められない特徴を持つから」の要素に1点。
 - 「人間という生物にしか認められない特性を持つから」、「人間以外には見られない生物的特徴を持つから」などでも可。
 - × 「人間以外の生物には認められない特徴」のニュアンスの成分が入っていないければ

問4 9点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

A③〇1点

A④〇1点

現代の情報社会にあつて、

近年の若い人たちは、

SNSやLINEで、

少数のグル

A⑤〇1点

ープ内で 即座に反応するように縛られており、

B①〇1点

B②〇1点

原理的にオープンなはずの ネット上のコミュニティが

C〇1点

X〈逆説〓矛盾を含むこと〉〇1点

実は非常に閉じられたものとなっているから。(9点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明すべく、具体的な話題のAを、B、Cの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明して行く〈逆説〓矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上と、条件Cがそろっていれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加点。

X〈逆説〓矛盾を含むこと〉 Aの要素+Bの要素+C 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件A、B内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(8点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した、条件、要素の組み合わせの意味内容が成立している場合にのみ加点する。(1点満点)

A 「現代の情報社会にあつて、近年の若い人たちは、SNSやLINEで、少数のグループ内で即座に反応するように縛られており、」(5点)

※ 傍線部の理由説明をするための具体的な話題提示の条件。

① 「現代の情報社会にあつて、」の要素に1点。

○ 「現代情報社会においては、」情報化された現代社会では、」などでも可。

× 「現代の情報社会」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「近年の若い人たちは、」の要素に1点。

○ 「最近の若者たちは、」現代的な若者たちは、」などでも可。

- × 「近年の若者たち」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ③ 「SNSやLINEで、」の要素に1点。
 - 「SNSやLINE上で、」ソーシャルネットワーク上で、」などでも可。
 - × 「SNSやLINE」に相当する成分が入っていないければ×0点。
- ④ 「少数のグループ内で」の要素に1点。
 - 「少数のグループの人間だけで」「グループの少数の人間内で」などでも可。
 - × 「少数のグループ内」の成分が入っていないければ×0点。
- ⑤ 「即座に反応するように縛られており、」の要素に1点。
 - 「即座の反応を求められており、」「即座に対応するように拘束されており、」などでも可。
 - × 「即座の反応に縛られている」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- B 「原理的にオープンなはずのネット上のコミュニティが」(2点)
 - ※ 傍線部を説明すべく、Aの構造を説明していく一方の条件。
 - ① 「原理的にオープンなはずの」の要素に1点。
 - 「原則的にはオープンなはずの」「原理的に開かれているはずの」などでも可。
 - × 「原理的にオープン」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
 - ② 「ネット上のコミュニティが」の「要素に1点。
 - 「インターネット上のコミュニティが」「ネット空間の共同体が」などでも可。
 - × 「ネット上のコミュニティ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
ネット上／コミュニティのどちらのニュアンスも必要
 - C 「実は非常に閉じられたものとなっているから。」(1点)
 - ※ 傍線部を説明すべく、Aの構造を説明して行く、Bとは〈矛盾〉する他方の条件。
 - 「実際には極めて閉じられたものであるから。」「見かけと違って非常にクローズドなものとなっているから。」などでも可。
 - × 「非常に閉じられたもの」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問5 9点

(模範解答例)

- A①○1点 A②○1点 A③○1点
- 自然数や、 一つのシニフィアンが次のそれを指示する連鎖、 次の対象に向かう欲望、
- B①○1点 B②○1点 X〈分析Ⅱ分けること〉○1点
- そして資本の増殖を求める、 現代資本主義などの

C①〇1点

C②〇1点

オープンシステムが、際限なく一方方向に開かれていること。 (9点)

Y (共通性の抽象による総合⇕共通性を引き出してまとめること⇐帰納) 〇1点

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明するために、(矛盾)しない二条件A、Bに(分析⇕分けること)してゆく構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みは成立しているともみなして1点加点。

X (分析⇕分けること) Aの要素+Bの要素 〇1点

・ Yは、条件A、Bから、(共通性)を引き出してCにまとめる、(共通性の抽象による総合⇕共通性を引き出してまとめること⇐帰納)の構造への評価である。ここでは、A、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みは成立しているともみなして1点加点。

Y (共通性の抽象による総合⇕共通性を引き出してまとめること⇐帰納) Aの要素+

Bの要素+Cの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また各条件内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「自然数や、一つのシニフィアンが次のそれを指示する連鎖、次の対象に向かう欲望、」 (3点)

※ 傍線部を説明するための一方の条件。

① 「自然数や、」の要素に1点。

× 「自然数」の成分が入っていなければ×0点。自然数を説明したもので可

② 「一つのシニフィアンが次のそれを指示する連鎖、」の要素に1点。

○ 「シニフィアンが必ず次のシニフィアンを指し示すような連鎖、」「シニフィアンが連鎖的に次のシニフィアンを指示するシステム、」などでも可。

× 「シニフィアンの連鎖」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

③ 「次の対象に向かう欲望、」の要素に1点。

○ 「次々に対象を更新してゆく欲望、」「現在あるものに満足せず次の対象に向かう欲望」などでも可。

× 「次の対象に向かう欲望」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

B 「そして資本の増殖を求める現代資本主義などの」(2点)

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉しない他方の条件。

① 「そして資本の増殖を求める」の要素に1点。

○ 「また資本の自己増殖を追求する」「資本の増殖を目的とする」などでも可。

× 「資本の増殖の追求」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点

② 「現代資本主義などの」の要素に1点。

× 「現代資本主義」のニュアンスの成分が入っていなければ×0点。

C 「オープンシステムが、際限なく一方方向に開かれていること。」(2点)

※ B、Cから〈共通性〉を引き出してまとめ。結論づける条件。

① 「オープンシステムが、」の要素に1点。

× 「オープンシステム」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

② 「際限なく一方方向に開かれていること。」の要素に1点。

○ 「無限に増えていく方向に開かれていること。」「限りなく開かれていること。」などでも可。

× 「際限なく開かれている」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

問6 8点

(模範解答例)

A①○1点

花びらの数や、植物の花や実の螺旋の数などに現れ、

A②○1点

隣り合う数字が黄金比に収束して

行くフィボナッチ数、

B①○1点

そして錬金術でのフラスコ内の変容や金の変容に喩えられる、

B②○1点

変容する富などの

X 〈分析〓分けること〉○1点

C①○1点

C②○1点

有機的構造にあるものが 空間的に閉じていること。

Y 〈共通性の抽象による総合〓共通性を引き出してまとめること〉〓帰納〈○1点

【構造点】

・Xは、傍線部を説明すべく、〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析Ⅱ分けること〉してゆく構造への評価である。ここではA、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造が成立しているとみなして1点加点。

X〈分析Ⅱ分けること〉 Aの要素+Bの要素 ○1点

・Yは、条件A、Bから、〈共通性〉を引き出してCにまとめる、〈共通性の抽象による総合Ⅱ共通性を引き出してまとめること≠帰納〉の構造への評価である。ここでは、A、B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加点。

Y〈共通性の抽象による総合Ⅱ共通性を引き出してまとめること≠帰納〉 Aの要素+Bの要素+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士においても、また各条件内で要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(6点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「花びらの数や、植物の花や実の螺旋の数などに現れ、隣り合う数字が黄金比に収束して行くフィボナッチ数、」(2点)

※ 傍線部を説明するための一方の条件。

① 「花びらの数や、植物の花や実の螺旋の数などに現れ、」の要素に1点。

○ 「植物の花びらの数や、花や実の螺旋の数などに現れる、」「植物の花びらや花や実の螺旋の数など自然界によく現れる」などでも可。

× 「花びらの数、あるいは植物の花や実の螺旋の数」のいずれかの成分が入っていないければ×0点。

② 「隣り合う数字が黄金比に収束して行くフィボナッチ数、」の要素に1点。

○ 「隣接する数が黄金比に収斂して行くフィボナッチ数、」「隣り合う数が黄金比に近づいていくフィボナッチ数、」などでも可。

× 「隣り合う数字が黄金比に収束して行くフィボナッチ数」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「そして錬金術でのフラスコ内の変容や金の変容に喩えられる、変容する富などの」(2点)

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉しない他方の条件。

- ① 「そして錬金術でのフラスコ内の変容や金の変容に喩えられる」、「の要素に1点。」
- 「また錬金術におけるフラスコの中の変容や、金への変容になぞらえられる」、「
- 「そして錬金術におけるフラスコ内での変容などに喩えられる」、「などでも可。
- × 「錬金術でのフラスコ内の変容、または金への変容」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。「フラスコ」内であることに触れていないものは不可。
- ② 「変容する富などの」の要素に1点。
- 「変容によって現れる富などの」「変容としての富などの」などでも可。
- × 「変容する富」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「有機的構造にあるものが空間的に閉じていること。」(2点)

※ A, Bから〈共通性〉を引き出してまとめ。結論づける条件。

- ① 「有機的構造にあるものが」の要素に1点。
- 「有機的な世界にあるものが」「有機的構造をもつものが」などでも可。
- × 「有機的」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
- ② 「空間的に閉じていること。」の要素に1点。
- 「閉じた空間にあること。」「空間を閉じるように存在していること。」などでも可。
- × 「空間的に閉じている」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問7 9点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

西洋的な内面化を経て 開いていたものから閉じたものに變化したというのではなく

B①○1点

B②○1点

B③○1点

本質的に「開いて閉じている」 逆説的なあり方であり、 だからこそ内外が符合したり、

B④○1点

X〈分析〓分けること〉○1点

偶然が意味あるパターンをなしてあらわれるという

C○1点

Y〈総合〓まとめること〉○1点

こころの捉え方。(9点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を、(notP~butQ)の構文を構成する〈矛盾〉しない二条件A、Bに〈分析〓分けること〉として説明してゆく構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素が、それぞれ一つ以上あればこ

の構造の骨組みが成立しているとみなして1点加點。

X (分析Ⅱ分けること) Aの要素+Bの要素 ○1点

・Yは、条件A、Bを、条件Cに(総合Ⅱまとめること)する構造への評価である。ここでは、条件A、Bの要素がそれぞれ一つ以上と、条件Cがあれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加點。
Y (総合Ⅱまとめること) Aの要素+Bの要素+C ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件A、B内では要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(7点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加點する。(2点満点)

A 「西洋的な内面化を経て開いていたものから閉じたものに変化したというのではなく」(2点)

※ 傍線部を説明するための、〈notP〉の条件。

① 「西洋的な内面化を経て」の要素に1点。

○ 「西洋的な発想による内面化を経て」「西洋の影響による内面化を經由して」などでも可。

× 「西洋的な内面化」のニュアンスの成分が入っていないなければ×0点。

② 「開いていたものから閉じたものに変化したというのではなく」の要素に1点。

○ 「オープンなものからクローズドなものに変容したという単純なことではなく」「開いていたものが閉じたものに変ったというのではなく、」

× 「開いたもの↓閉じたもの」の否定」の成分が入っていないなければ×0点。

B 「本質的に『開いて閉じている』逆説的なあり方であり、だからこそ内外が符合したり、偶然が意味あるパターンをなしてあらわれるという」(4点)

※ 傍線部を説明するための、〈butQ〉の条件。

① 「本質的に『開いて閉じている』の要素に1点。

○ 「本源的に『開いて閉じている』」元来『開いて閉じている』などでも可。

× 「本質的に(Ⅱ性質として)『開いて閉じている』のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。
② 「逆説的なあり方であり、」の要素に1点。

○ 「パラドキシカルなあり方なのであり、」「逆説の構造をしているのであり、」などでも可。

× 「逆説的なあり方」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「だからこそ内外が符合したり、」の要素に1点。

○ 「それゆえに中と外の現実が符合していたり、」「それだからこそ心の内と外とが照応していたり、」などでも可。

× 「内外の符合」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

④ 「偶然が意味あるパターンをなしてあらわれるという」の要素に1点。

○ 「偶然のように生じてくる現実の出来事が意味のあるパターンをなしているという」「偶然の出来事が実は意味あるパターンをなしているという」などでも可。

× 「偶然が意味のあるパターンをなす」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「**「」の捉え方。」**(1点)

※ B、Cをまとめる条件。

○ 「**「」の把握の仕方。」**」「**「」を認識する仕方。」**

× 「**「」の捉え方」**のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

2020年 第3回 九大本番レベル模試

教・法・経 第2問 (60点)

□ 現代文 (評論) 採点基準 (合計60点)

問1 8点

(模範解答例)

A①〇1点

A②〇1点

消費資本主義は「距離」を生み出し利潤を発生させる経済システムだが、消費者は「距

離」を感じるとき、

B①〇1点

B②〇1点

商品を意味の体系において認識し、 習慣的な消費行動を脱して新たな商品消費し、

C〇1点

X (分析〓分けること) 〇1点

自己を社会の中で定位しようとすると捉える

D〇1点 Y (総合〓まとめること) 〇1点

視点。(8点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を説明すべく、Aを(因果関係)にある(矛盾)しない二条件B、Cに(分析〓分けること)として説明してゆく構造への評価である。ここではA、Bの要素がそれぞれ一つ以上あり、それに条件Cがあれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加点。

X (分析〓分けること) Aの要素+Bの要素+C 〇1点

・ Yは、条件B、Cを、条件Dに(総合〓まとめること)して行く構造への評価である。ここでは、条件Bの要素が一つ以上、それに条件C、Dがあれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加点。

Y (総合〓分けること) Bの要素+C+D 〇1点

※ A、B、C、Dは条件同士においても、また条件A、B内の要素同士においても原則的に部分採点可能とする。(6点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 「消費資本主義は『距離』を生み出し利潤を発生させる経済システムだが、消費者は『距離』を感じる」とき、(2点)

※ 傍線部を説明するための、背景と主体の条件。

① 「消費資本主義は『距離』を生み出し利潤を発生させる経済システムだが、」の要素に1点。

○ 「消費資本主義は『距離』を生み出すことを通して利潤を発生させる経済システムだが、」消費資本主義は『距離』を媒介にして利潤を産み出す経済システムであり、」などでも可。

× 「消費資本主義は『距離』を生み出し利潤を発生させる経済システム」の成分が入っていないければ×0点

② 「消費者は『距離』を感じる」とき、「の要素に1点。

○ 「『距離』を感じた消費者は、「消費者は『距離』を感じさせられて、」などでも可。

× 「消費者が『距離』を感じる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「商品を意味の体系において認識し、習慣的な消費行動を脱して新たな商品を消費し、」(2点)

※ 傍線部を説明するための〈因果関係〉を構成する〈因〉の条件。

① 「商品を意味の体系において認識し、」の要素に1点。

○ 「商品を意味の体系において位置づけ、」意味の体系において商品を理解し、」などでも可。

× 「商品を意味の体系において認識」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「習慣的な消費行動を脱して新たな商品を消費し、」の要素に1点。

○ 「習慣化していた消費行動を脱却して新しい商品を消費し、」決まり切っていた消費行動を止めて新たな商品を購入し、」などでも可。

× 「習慣的な消費行動を脱して新たな商品を消費する」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「自己を社会の中で定位しようとする」と捉える(1点)

※ 傍線部を説明するための〈因果関係〉を構成する〈果〉の条件。

○ 「自分を社会の中で意味づけよう」と捉える「社会の中に自分を位置づけよう」とすると考える」などでも可。

× 「自分を社会内で定位しようとする」「捉える(非)」「のだという」等でも可」「
のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

D 「視点。」(1点)

※ B、Cをまとめる条件。

× 「視点」の成分が入っていないければ×0点。

問2 8点

(模範解答例)

A①01点 A②01点

「イヌ」は、実在する動物の側にはない区別を、

B01点

「inu」という音声は「neko」との差異によって、

C01点

X (分析||分けること) 01点

「犬」という文字が「猫」との差異によって表示し、

D①01点

D②01点

「動物」という同種のカテゴリーの中の 「範列」関係にある異種のもと確定するから。

Y (総合||まとめること) 01点 (8点)

【構造点】

・ Xは、傍線部の理由説明をすべく、条件Aを(矛盾)しない二条件B(音声)、C(文字)に(分析||分けること)として説明して行く構造への評価である。ここでは、条件Aの要素が一つ以上、それに条件B、Cがそろってれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加算。

X (分析||分けること) Aの要素+B+C 01点

・ Yは、B、C二条件を、条件Dに(総合||まとめること)する構造への評価である。ここでは、条件B、Cと、条件Dの要素が一つ以上入っているならば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加算。

Y (総合||まとめること) B+C+Dの要素 01点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士で、また条件A、D内の要素同士でも原則的に部分採点可

能である。(6点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(2点満点)

A 『イヌ』は、実在する動物の側にはない区別を、「(2点)

※ 傍線部の理由説明をするための話題提示の条件。

① 『イヌ』は、「」の要素に1点。

× 『イヌ』の成分が入っていないならば×0点。

② 「実在する動物の側にはない区別を」の要素に1点。

○ 「実在の動物には存在しない区別を」「実際の動物には見られない区分を」などでも可。

× 「実在する動物の側にはない区別」のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

B 『inu』という音が『neko』との差異によって、「(1点)

※ Aを説明するための一方の条件(音声)。

○ 『inu』という音声と『neko』という音声との差異によって、「『inu』と『neko』という音声の差異によって、「」などでも可。

× 『inu』と『neko』という音声の差異「のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

C 『犬』という文字が『猫』との差異によって表示し、「(1点)

※ Aを説明するための、Bとは〈矛盾〉しない他方の条件(文字)。

○ 『犬』という文字と『猫』という文字の差異によって表示し、「『犬』と『猫』という文字の差異によって表示し、「」でも可。

× 『犬』と『猫』という文字の差異による表示「のニュアンスの成分が入っていないならば×0点。

D 『動物』という同種のカテゴリの中の『範列』関係にある異種のもとと確定するか
ら。(2点)

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

① 『動物』という同種のカテゴリの中の「」の要素に1点。

○ 『動物』という同じの範疇の中の「同じ『動物』というカテゴリ中の「」などでも可。

× 『動物』という同種のカテゴリ「のニュアンスの成分が入っていないならば×

0点。

② 『範列』関係にある異種のもと確定するから。」の要素に1点。

○ 「パラダイグム関係にある異種のもとみなされるから。」「『範列』関係にある異なる種と判断されるから。」などでも可。

× 『範列』関係にある異種のもと確定」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問3 6点

(模範解答例)

A○1点

言葉の意味は、

B○1点

範列からの選択だけでなく、

C①○1点

C②○1点

「犬」に「権力の」という別語が添えられれば、動物を指さなくなるように、適切な連

C③○1点

辞の形成にも拠るから。

X〈分析〓分けること〉○1点 (6点)〈70字〉

【構造点】

・ Xは、傍線部の理由説明をすべく、条件Aを〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉として説明してゆく構造への評価である―構文的には〈not onlyP but alsoQ〉の仕組みである。ここでは、条件A、Bと、条件Cの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みは成立しているとみなして1点加算。
X〈分析〓分けること〉 A+B+Cの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において、また条件C内の要素同士においても原則的に部分採点可能である。(5点満点)

※ ただし、【構造点】Xは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(1点満点)

※ 70字の字数制限付きの問題であるから、字数オーバーの解答は採点対象外、つまり0点である。

A 「言葉の意味は、」(1点)

※ 傍線部を説明するための話題提示の条件。

× 「言葉の意味」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

B 「範列からの選択だけでなく、」(1点)

※ 傍線部を説明するための一方の条件 (not only)。

○ 「パラダイグムからの選択だけでなく、」範列関係からの選択のみならず、「なども可」。

× 「範列関係からの選択」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 『犬』に『権力の』という別語が添えられれば、動物を指さなくなるように、適切な連辞の形成にも拠るから。(3点)

※ 傍線部を説明するための他方の条件 (but also)。

① 『犬』に『権力の』という別語が添えられれば、「の要素に1点。

○ 『犬』に『権力の』という別の言葉が付加されれば、『犬』に『権力の』という別語が接続されれば、「なども可」。

× 『犬』に『権力の』という別語が添えられる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「動物を指さなくなるように、」の要素に1点。

○ 「動物を指示しなくなるように、」「動物ではなくなるように、」なども可。

× 「動物であることの否定」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「適切な連辞の形成にも拠るから、」の要素に1点。

○ 「適当なサンタグム形成にも拠るから。」「適当なサンタグムの構成にも依存するから。」「なども可」。

× 「適切な連辞の形成にも拠る」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

「連辞」あるいは「サンタグム」の語が必要

問4 11点

(模範解答例)

A○1点

例えば、「inu」が「権力の」と繋がること。

B①〇1点

B②〇1点

「inu」というシニフィアンと「あの動物」というシニフィエが一緒になって

シニフ

B③〇1点 W〈総合＝まとめること〉〇1点

イアンと化し、

C〇1点

X〈分析＝分けること〉〇1点

「権力の」というシニフィアンと合体して、

D①〇1点

D②〇1点

一つの新たな単位のシニフィアンを形成する二重構造によって、

「盲従」というシニフ

Y〈分析＝分けること〉〇1点 Z〈総合＝まとめること〉〇1点

イエを示していること。(11点)

【構造点】

・Wは、B内部で、B①とB②を、B③に〈総合＝まとめること〉する構造への評価である—B①とB②の間の〈分析＝分けること〉構造はここでは採点対象とはしない—。ここでは、B①、B②、B③がそろっていれば、この構造が成立しているとみて1点加算。

W〈総合＝まとめること〉 B①+B②+B③ 〇1点

・Xは、傍線部を説明すべく、条件Aを、〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析＝分けること〉して説明して行く構造への評価である。ここでは、条件Aと、条件Bの要素が一つ以上、そして条件Cがあれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈分析＝分けること〉 A+Bの要素+C 〇1点

・Yは、D内部で、〈因果関係〉をなすD①、D②に、〈分析＝分けること〉する構造への評価である。ここでは、D①、D②がそろってれば、この構造が成立しているとみて1点加算。

Y〈分析＝分けること〉 D①+D② 〇1点

・Zは、条件B、Cを、条件Dに〈総合＝まとめること〉する構造への評価である。ここでは、Bの要素が一つ以上、条件C、それに条件Dの要素が一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Z〈総合＝まとめること〉 Bの要素+C+Dの要素 〇1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件B、D内では要素同士においても原則的に部分採点可能。(7点満点)

※ ただし、【構造点】W・X・Y・Zは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加点する。(4点満点)

A 「例えば、『inu』が『権力の』と繋がると、」(1点)

※ 傍線部を説明するための、具体的な話題提示の条件。

○ 「たとえば、『inu』が『権力の』と結びつくと、」
「具体的には、『inu』が『権力の』と接続すると、」などでも可。

× 『inu』が『権力の』と繋がる」の成分が入っていないければ×0点。

B 『inu』というシニフィアンと『あの動物』というシニフィエが一緒になってシニフィアンと化し、」(3点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明する一方の条件。

① 『inu』というシニフィアンと」の要素に1点。

× 『inu』というシニフィアンと」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 『あの動物』というシニフィエが一緒になって」の要素に1点。

○ 『あの動物』というシニフィエが合体して」『あの動物』というシニフィエが一元化して」などでも可。

× 『あの動物』というシニフィエが合体」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「シニフィアンと化し、」の要素に1点。

○ 「シニフィアンとなって、」
「シニフィアンを形成し、」などでも可。

× 「シニフィアンと化す」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 『権力の』というシニフィアンと合体して、」(1点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明する、Bとは〈矛盾〉しない他方の条件。

○ 『権力の』というシニフィアンと連合して、」
『権力の』なるシニフィアンと繋がって、」などでも可。

× 『権力の』というシニフィアンと合体」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

D 「一つの新たな単位のシニフィアンを形成する二重構造によって、」
「盲従」というシニフィエを示していること。」(2点)

① 「一つの新たな単位のシニフィアンを形成する二重構造によって、」の要素に1点。

○ 「新しい一つの単位のシニフィアンをなす二重構造を通して、」
「一つの新単位のシニフィアンを介した二重構造によって、」などでも可。

× 「一つの新たな単位のシニフィアンを形成」
「二重構造」のニュアンスの二成分

がそろっていないなければ×0点。

② 『盲従』というシニフィエを示していること。」の要素に1点。

○ 『盲従』というシニフィエを指示していること。』『盲従』なるシニフィエを指していること。」などでも可。

× 『盲従』というシニフィエを指示」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問5 11点

(模範解答例)

A①○1点

A②○1点

例えば、ピアノが楽器として以外に

家庭生活の「余裕」や「豊かさ」を意味し、

A③○1点

A④○1点

白シャツ、黒いズボンに靴とネクタイが

葬式の悲しみを連想させるように、サンタグムが

X 〈分析〓分けること〉○1点

全体的な意味を付与したりして、

Y 〈総合〓まとめること〉○1点

A⑤○1点

消費の全体がライフスタイルを表現することになるが、

B①○1点

B②○1点

葬式衣装に黒いめがねと帽子を追加すれば、

コメディアンの仮葬となるように、比喩の

B③○1点

働きによって、財の意味が無限に拡張されること。

Z 〈逆説〓矛盾を含むこと〉○1点(11点)

【構造点】

・ Xは、条件A内部を、〈A①+A②〉と〈A③+A④〉の〈矛盾〉しない二部分に〈分析〓分けること〉して説明して行く構造への評価である。ここでは〈A①、A②のいずれか〉と〈A③、A④のいずれか〉がそろっていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X 〈分析〓分けること〉 〈A①、A②のいずれか〉+〈A③、A④のいずれか〉 ○
1点

・ Yは、やはりA内部で、〈A①+A②〉と〈A③+A④〉を、A⑤に〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは〈A①、A②のいずれか〉と〈A③、A④のいずれか〉、それにA⑤がそろっていれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

〈A①、A②のいずれか〉＋〈A③、A④のいずれか〉＋A⑤ ○1点

・Zは、傍線部を、A、Bの〈矛盾〉する二条件に引き裂いて説明してゆく、〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉の構造への評価である。ここでは、A、Bの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Z 〈逆説Ⅱ矛盾を含むこと〉 Aの要素＋Bの要素 ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、Bは条件同士において、また各条件内では要素同士においても原則的に部分採点可能である。(8点満点)

※ ただし、【構造点】X・Y・Zは、右に示した要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(3点満点)

A 「例えば、ピアノが楽器として以外に家庭生活の『余裕』や『豊かさ』を意味し、白シャツ、黒いズボンに靴とネクタイが葬式の悲しみを連想させるように、サンタグムが全体的な意味を付与したりして、」(5点)

※ 傍線部を説明するための一方の条件。

① 「例えば、ピアノが楽器として以外に」の要素に1点。

○ 「たとえば、ピアノが楽器としてだけでなく」「具体的には、ピアノが楽器である他に」などでも可。

× 「ピアノが楽器として以外に」のニュアンスの成分入っていないければ×0点。

② 「家庭生活の『余裕』や『豊かさ』を意味し、」の要素に1点。

○ 「家庭生活の『余裕』や『豊かさ』を含意し、」「家庭生活の『余裕』、『豊かさ』を示唆し、」などでも可。

× 「家庭生活の『余裕』や『豊かさ』を意味する」のニュアンスの成分入っていないければ×0点。

③ 「白シャツ、黒いズボンに靴とネクタイが」の要素に1点。

○ 「白シャツ、黒いズボンに黒靴と黒ネクタイが」「白シャツに、黒のズボン、靴、ネクタイが」などでも可。

× 「白シャツ、黒いズボンに靴とネクタイ」のニュアンスの成分入っていないければ×0点。

④ 「葬式の悲しみを連想させるように、サンタグムが全体的な意味を付与したりして、」の要素に1点。

○ 「葬式の悲しみを想起させるように、サンタグムが全体としてまとまった意味を

付与して、「葬式の悲しみを呼び起こすように、サンタグムが全体としての意味をつくり出し、」などでも可。

× 「葬式の悲しみを連想させる」「サンタグムが全体的な意味を付与する」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

⑤ 「消費の全体がライフスタイルを表現することになるが、」の要素に1点。

○ 「消費の全体によってライフスタイルが表現されることになるが、」「消費の全体がライフスタイルを表象することになるが、」などでも可。

× 「消費の全体がライフスタイルを表現する」のニュアンスの成分入っていないければ×0点。

B 「葬式衣裳に黒いめがねと帽子を追加すれば、コメディアンの仮装となるように、比喩の働きによって、財の意味が無限に拡張されること。」(3点)

※ 傍線部を説明するための、Aとは〈矛盾〉する他方の条件。

① 「葬式衣裳に黒いめがねと帽子を追加すれば、」の要素に1点。

○ 「葬式衣裳に黒めがねと黒帽子を付け加えれば、」「葬式衣裳に黒めがねと帽子を加味すれば、」などでも可。

× 「葬式衣裳に黒いめがねと帽子を追加」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「コメディアンの仮装となるように、」の要素に1点。

○ 「コメディアンの衣装となるように、」「コメディアンの衣裳に転じるように、」などでも可。

× 「コメディアンの仮装となる」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「比喩の働きによって、財の意味が無限に拡張されること。」の要素に1点。

○ 「比喩にもとづく連想によって、財の意味が新たに拡張されていくこと。」「比喩を介して、財の意味がさまざまに広がっていくこと。」などでも可。

× 「比喩の働きによる財の意味の拡張」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問6 11点

(模範解答例)

A○1点

ピアノは

B①○1点

かつて楽器としての機能性を持つ他に、

B②○1点

「豊かさ」のイメージが「距離」となって消費者

B③〇1点

消費意欲をかきたてて 利潤を生んだが、

C①〇1点

C②〇1点

余裕を演出する手段となった今は、大人のピアノ・レッスンは商品化されているように、

X〈分析〓分けること〉〇1点

D①〇1点

D②〇1点

D③〇1点

商品として、資本主義の超過利潤追求の動きの中で、価格も意味も変動すること。(11点)

Y〈総合〓まとめること〉〇1点

【構造点】

・Xは、傍線部を説明すべく、条件Aを、〈矛盾〉しない二条件B、Cに〈分析〓分けること〉して説明してゆく構造への評価である。ここでは、条件Aと、条件B、Cの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

X〈分析〓分けること〉 A+Bの要素+Cの要素 〇1点

・Yは、条件B、Cを、Dに〈総合〓まとめること〉する構造への評価である。ここでは、条件B、C、Dの要素がそれぞれ一つ以上あれば、この構造の骨組みが成立しているとみなして1点加算。

Y〈総合〓まとめること〉 Bの要素+Cの要素+Dの要素

◎ 採点のポイント

※ A、B、C、Dは条件同士において、また条件B、C、D内では要素同士においても原則的に部分採点可能である。(9点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した、条件、要素を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 「ピアノは」(1点)

※ 傍線部を説明するための話題提示の条件。

× 「ピアノ」の成分が入っていないければ×0点。

B 「かつて楽器としての機能性を持つ他に、『豊かさ』のイメージが『距離』となって消費者の消費意欲をかきたてて利潤を生んだが、」(3点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明して行く一方の条件。

① 「かつて楽器としての機能性を持つ他に、」の要素に1点。

○ 「以前は楽器としての機能性を持つだけでなく、」一昔前までは楽器としての機能

能が問われたのみならず、「」などでも可。

× 「かつて楽器としての機能性を持つだけでなく、「」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 『豊かさ』のイメージが『距離』となって消費者の消費意欲をかきたてて「」の要素に1点。

○ 『豊かさ』のイメージが消費者に『距離』を感じさせて消費意欲をかきたて「『豊かさ』の象徴として消費者に『距離』を意識させ、消費意欲をかきたてる仕方」などでも可。

× 『豊かさ』のイメージが『距離』となって消費者の消費意欲をかきたてる「」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

③ 「利潤を生んだが、「」の要素に1点。

○ 「利潤を生じたが、「」利潤をもたらしたが、「」などでも可。

× 「利潤を生んだ」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

C 「余裕を演出する手段となった今は、大人のピアノ・レッスンが商品化されているように、「」(2点)

※ 傍線部を説明すべく、Aを説明して行く他方の条件。

① 「余裕を演出する手段となった今は、「」の要素に1点。

○ 「余裕の演出のためにも用いられるようになった現在は、「」余裕演出の手段となった今では、「」などでも可。

× 「余裕を演出する手段となった今」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「大人のピアノ・レッスンが商品化されているように、「」の要素に1点。

○ 「大人のピアノ・レッスンが売買されているように、「」大人のピアノ・レッスンが価値づけられているように、「」などでも可。

× 「大人のピアノ・レッスンの商品化」の成分が入っていないければ×0点。

D 「商品として、資本主義の超過利潤追求の動きの中で価格も意味も変動すること。」(3点)

※ B、Cをまとめて結論づける条件。

① 「商品として、「」の要素に1点。

× 「商品として」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

② 「資本主義の超過利潤追求の動きの中で」の要素に1点。

○ 「超過利潤を求める資本主義の動きの中で」「超過利潤を追求する資本主義経済システムの中で」などでも可。

× 「資本主義の超過利潤追求の動き」のニュアンスの成分が入っていないければ×0

点。

③ 「価格も意味も変動すること。」の要素に1点。

○ 「価値も意味も変化すること。」「価格は変動し、商品の意味もまた変わること。」
などでも可。

× 「価格も意味も変動」のニュアンスの成分が入っていないければ×0点。

問7 5点

(模範解答例)

A ○1点

消費は商品への消費者の好みより、社会的に共有される価値に関わり、

B ○1点

X (分析||分けること) ○1点

また消費様式がその人の社会的評価を定めるように、

C ○1点

商品はコノテーション的側面において消費されるのだという主張。

Y (総合||まとめること) ○1点 (5点)

【構造点】

・ Xは、傍線部を、(矛盾)しない二要素A (商品)、B (人)の二条件に(分析||分けること)して説明していく構造への評価である。ここでは、A、Bがそろっていれば、この構造が成立しているとみて1点加算。

X (分析||分けること) A + B ○1点

・ Yは、A、BをCに(総合||まとめること)していく構造への評価である。ここでは、A、B、Cそろっていれば、この構造が成立しているとみて1点加算。

Y (総合||まとめること) A + B + C ○1点

◎ 採点のポイント

※ A、B、Cは条件同士において原則的に部分採点可能である。(3点満点)

※ ただし、【構造点】X・Yは、右に示した条件を組み合わせた意味内容が成立している場合にのみ加算する。(2点満点)

A 「消費は商品への消費者の好みより、社会的に共有される価値に関わり、」(1点)
※ 傍線部を説明するための一方の条件(商品)。

○ 「消費は商品に対する消費者の好みではなく、社会的に分有された価値に関わり、」消費は商品そのものへ消費者個人の好みというより、社会的な価値に関わり、」などでも可。

× 「消費」「商品への消費者個人の好みの否定」「社会的に共有された価値に関わり、」のニュアンスの三成分がそろっていないければ×0点。

B 「また消費様式がその人の社会的評価を定めるように、」(1点)

※ 傍線部を説明するための、Aとは(矛盾)しない他方の条件(人)。

○ 「また消費様式が当事者の社会的評価を決定づけるように、」他方で消費に見られる様式がその人の社会での評価を規定するように、」などでも可。

× 「消費様式がその人の社会的評価を定める」のニュアンスの成分が入っていないば×0点。

C 「商品はコノテーション的側面において消費されるのだという主張。」(1点)

○ 「商品はコノテーション的側面に基づいて消費されるという主張。」「商品の消費はコノテーションの次元で実行されているという主張。」などでも可。

× 「商品はコノテーション的側面において消費される」「主張」のニュアンスの二成分がそろっていないければ×0点。

◎ 採点例

A ○1点

1 消費は商品に対する消費者の好みというより、社会的に分有される価値に関わり、

B ○1点

X 〈分析〓分けること〉○1点

また消費様式が当事者の社会的評価を規定するように、

C ○1点

商品の消費はコノテーション的側面においてなされるのだという主張。

Y 〈総合〓まとめること〉○1点 (5点)

※ 語彙・表現が入れ替わっただけの内容・構造ともにそろった正解。

A ○1点

2 消費は商品に関する消費者個人の嗜好というより、社会的に分有される価値に関係し、

B ○1点

X 〈分析〓分けること〉○1点

他方で消費様式が本人の社会的評価を決定するように、

C×0点

商品の消費はなされるのだという主張。

Y〈総合＝まとめること〉×0点 (3点)

○ A、Bには傷はないので、X〈分析＝分けること〉の構造は成立しており○1点

× Cは、「コノテーション的側面において」の成分を欠き×0点。

× C×なので、Y〈総合＝まとめること〉の構造は成立せず×0点。

A×0点

3 消費は社会的に共有される価値に関与し、

B○1点

X〈分析＝分けること〉×0点

また消費の様式が当人の社会的な評価を決定するように、

C○1点

商品はコノテーション的次元に基づいて消費されるという主張。

Y〈総合＝まとめること〉×0点 (2点)

× Aは、「商品への消費者個人の好みの否定」の成分を欠き×0点。

× A×なので、X〈分析＝分けること〉の構造は成立せず×0点

× またやはり、A×なので、Y〈総合＝まとめること〉の構造も成立せず×0点。

A○1点

4 消費は消費者個人の好みより、社会的に共有される価値に関わっており、

B×0点

消費者の消費様式は、当人の社会的評価を定めるのと同様に

X〈分析＝分けること〉×0点

C○1点

商品がコノテーション的側面において消費されているという主張。

Y〈総合＝まとめること〉×0点 (2点)

※ 条件Bにおける「同様に」が文意になく誤読と判断されるために大きく減点されてしまった残念な解答。

× Bの「同様に」が文意に合わず×0点。

× したがって、X〈分析＝分けること〉の構造も、Y〈総合＝まとめること〉の構造も成立せず×0点。

A×0点

5 消費社会においては、それ自体のシニフィエの意味にとまらせず、その社会において

その商品がどのような意味を持つか、ということに依存して、

B×0点

その人の消費様式が決定されるということ。

X〈分析Ⅱ分けること〉×0点

C×0点 Y〈総合Ⅱまとめること〉×0点 (0点)

※ 本文を正確に読めて居ない解答。評価できる部分を全く欠いている。

× Aは、「それ自体のシニファイエの意味にとどまらず」が、「商品への消費者個人の好みの否定」の成分に合わず×0点。

× Bは、「その人の消費様式が決定される」が「消費様式がその人の社会的評価を定める」に合わず×0点。

× A、B×なので、X〈分析Ⅱ分けること〉の構造は成立せず×0点。

× Cを欠き×0点。

× A、B、C全滅なので、Y〈総合Ⅱまとめること〉の構造も成立せず×0点。

2020年 第3回 九大本番レベル模試

教・法・経 第3問 (40点)

問1 (各3点×4)

(2点)

(1点)

問1・①・模範解答

行方も知れずいなくなってしまった。(3点)

【各部の採点】 3点満点。加点ポイント2箇所。

- a 「行方も知れず」……………2点。「行方不明」の内容。完答。
b 「いなくなってしまった。」……………1点。「どこかに居なくなる」＋完了の意味。完答。

(1点)

(2点)

問1・②・模範解答

地蔵菩薩に何も手を施すこともできないでいた。(3点)

【各部の採点】 3点満点。加点ポイント2箇所。

- a 「地蔵菩薩に」……………1点。手を施す対象である「地蔵菩薩に」の明示。
b 「何も手を施すこともできないでいた」……………2点。「何もできない・手を施せない」＋存続の意。完答。

(2点)

(1点)

問1・③・模範解答

かろうじて、地蔵菩薩の木製の本体だけを作り申し上げて。(3点)

【各部の採点】 3点満点。加点ポイント2箇所。

- a 「かろうじて」……………2点。「やっつとのこと」の意。
b 「地蔵菩薩の木製の本体だけを作り申し上げて」……………1点。「だけ」＋「作る」＋「〜申し上げる(謙譲の補助動詞)」の三条件がそろっていること。完答。

(2点)

(1点)

問1・④・模範解答

午後二時ごろに急に専当法師の入っている棺桶が動く。(3点)

【各部の採点】 3点満点。加点ポイント2箇所。

- a 「午後二時ごろに」……………2点。「午後二時頃・「午後一時〜二時の間
ぐらいに」などの解釈。
- b 「急に専当法師の入っている棺桶が動く」……………1点 「急にこの棺（ひつぎ）が動く」の
内容。

問2 い_ニオ ろ_ニア は_ニウ に_ニイ ほ_ニキ
(各2点)

問3 え (5点)

問4 (9点)

問4・1・模範解答

- a (2点) b (1点) c (1点)
- 制作を頼んだ別当がいなくなつて困っている仏師たちに食べ物を求めて食べさせ、地蔵の木
作をさせたことに対して、恩義を感じた地蔵菩薩が専当法師を蘇生させた。(9点)
- d (3点) e (2点)

【各部の採点】9点。加点ポイント5箇所。

- a 「制作を頼んだ別当がいなくなつて困っている仏師たちに」……………2点。仏師たちの現状が
具体的に書いてあること。「困っている」
「食べ物がない」「仏像を作るために呼ば
れた」等、法師たちの説明として正しいも
のが書いてあれば可
- b 「食べ物を求めて食べさせ」……………1点 「食べ物_を求めて食べさせ」という内容。「食べ物
を与えた」「食べ物を求めた」ことが書いて
あれば可
- c 「地蔵の木作をさせた」……………1点。「地蔵建立の助けをした」という内容。
- d 「恩義を感じた地蔵菩薩」……………3点。「地蔵菩薩が感謝の念を抱いた」という内容
- e 「専当法師を蘇生させた。」……………2点。「法師を生き返らせた」という内容。

問5 ウ (4点)

2020年 第3回 九大本番レベル模試

経済・法・教育学部 採点基準 第4問(40点)

※要素別に採点する場合、各要素の最低点は0点とする(減点の結果、ある要素が0点以下になってもその要素は0点)。

問1

基準 配点:8点(4点×2)

■形式上の不備

・() の有無は問わない。

■模範解答

①(オ) ③(イ)

■採点方法

・①・③それぞれ別々に採点。
・解答例のみ正解。

問2

基準 配点:7点

■形式上の不備

・一字でもひらがな以外の文字を用いているものは**全体0点**。
・「願↓公↓坐↓在、人↓楽↓不↓使」の語順で読んでいないものは**全体0点**。
・句読点の有無は不問。

■模範解答

A 2点

こころざしにあれば、

B 2点

ひとをして

C 3点

たのしみやしむ〔と〕

(別解)

A 2点

「こころぎにあれば」

B 2点

ひとをして

C 3点

たのしからざらむ「と」

■採点方法 各要素単独採点

要素A 「顧公在坐」の読み方：ここうざにあれば＝2点

・「ここうざにあらば」も可とする。

・「ここうざにあり」「ここうざにありて」「ここうざにある」は要素A 1点減点。

・「ここう」の仮名づかいを「こかう」「こくわう」と間違っている場合は要素A 1点減点。

・他は一字でも誤りがあれば要素A 加点なし(要素A＝0点)。

要素B 「人」の読み方：ひとをして＝2点

・解答例のみ正解。一字でも誤りがあれば要素B 加点なし。

要素C 「使く不楽」の読み方：「たのしまざらしむ」と「＝3点

または「たのしからざらしむ」と「＝3点

・文末の「と」の有無は不問。

・「たのしめざらしむ」と「は要素C 1点減点。

・他は一字でも誤りがあれば要素C 加点なし(要素C＝0点)。

問3

基準 配点：4点(1点×4)

■形式上の不備

・すべてひらがなで記述していないものはそれぞれ0点。

■模範解答

(a) ひととなり 「は

(b) こころをもつ(っ)て

(c) こころをいへども

(c) ことへ(え)て

■採点方法

- ・(a)の送り仮名「は」の有無は問わない。
- ・解答例のみ正解。

問4

基準 配点：8点

■模範解答 ※同意表現可。ニュアンスが合っていれば許容。

- A 1点
 - もし
 - B 1点
 - 提言が
 - C 3点
 - 受け容れられ採用されると
 - D 1点
 - 必ずその提言を
 - E 2点
- 皇帝が考えたことにした。

■採点方法 各要素単独採点

要素A「若」の訳 もし1点

- ・「もしも」も可。
- ・漢字交じりの「若し」は不可。要素A加点数なし(要素A=0点)。

要素B「容れ用いられ」の主語の補い 意見が1点

- ・「意見」は「(政治のやり方についての、時宜になかった)提言」「政策」「進言」なども可。

要素C「容れ用いられれば」の解釈 受け容れられ採用されれば3点

- ・受身の対象「皇帝が(帝が・孫権が)」を補っても可。ただし誤ったものを補っている場合は要素B1点減点。
- ・「見」が受身を表す語であることが表現できておらず、受身の助動詞「れる・られる」が全く用いられていないものは要素B2点減点。

たとえば「皇帝が(その意見を)受け入れれば」のような答えは、趣旨は解答例と同じだが受身表現がないので要素B2点減点とする。

- ・「受け入れられ用いられ」は「容用」をまとめて「採用され」と訳しても可。
- ・「受け入れ用いられ」のように、受身の助動詞「れる・られる」を、「用いる」または「受け容れる」のどちらか一方にしかつけていないものは**要素B1点減点**。
- ・「受け容れ」は「受け入れ」「取り入れる」「容れる」「受容する」「許容する」も可。
- ・「用いる」は「採用する」「使う」も可。
- ・「〜と」「〜は」「〜といつも」「〜と必ず」なども可。

■「則(すなはち)」は訳出しないのが望ましいが、「すべし」「そのまま」「そこで」の意で訳出しているものは減点しない。明らかに誤った訳になっているものは**全体から1点減点**。

要素D「之を」の解釈 その提言を≦1点

- ・要素Bにおいて、「意見が」「提言が」などを補っている場合は、単に「それを」「これを」としても可とする。
- ・要素Bにおいて「意見が」「提言が」などを補っていない場合は、単に「それを」「これを」としているものは**要素D加点なし(要素D=0点)**。

要素E「上に帰す」の解釈 皇帝が考えたことにした≦2点

- ・「皇帝」「は」「帝」「孫権」も可。
- ・「王」は**要素E1点減点**。
- ・「皇帝(帝・孫権)」を含まない答えは**要素E加点なし(要素E=0点)**。
- ・「帰す」をそのまま「帰す」「帰した」としているものは**要素E加点なし(要素E=0点)**。
- ・「帰属させた」は可とする。
- ・(その意見を) 皇帝が言ったことにした」「(その意見を) 皇帝自らが考えついたことにした」という趣旨の答案であれば可。

問5

基準 配点:5点

■模範解答 同意表現可。ニュアンスが合っていれば可とする。

A 1点

あなたは

B 1点

張昭の意見を

C 3点

どう思うか

■採点方法 各要素単独採点

要素A 君＝あなたは 1点

・「君は」「お前は」など、二人称代名詞であれば可。

・「は」がないものは**要素A加點なし**(**要素A＝0点**)。

要素B 目的語＝張昭の意見を 1点

・「意見」は「考え」なども可。

・「張昭」を示さず、「刑罰や法律を簡略にすべきだ」という考えを「刑罰や法律を簡素化することによって」「のよう」にしても可。

要素C 以て如何と為す＝どう思うか 3点

・「以て」を訳出しているものは**要素C1点減点**。

・疑問文になっていないものは**要素C加點なし**(**要素C＝0点**)。

・疑問文になっていれば、文末の「か」(の)の「か」の有無は問わない。

たとえば「どう思う」も可とする。

・「如何と」「を、を、を」「べつ」「べつ」「べつ」「べつ」「べつ」「べつ」の意で解釈していないものは**要素C1点減点**。

・「いかに」「いかんと」のように現代語といえないものも**要素C1点減点**。

・「為す」を「考える」「判断する」の意で解釈していないものは**要素C2点減点**。

問6

基準 配点：4点

■形式上の不備

・() の有無は問わない。

■解答例

(ア)

■採点方法

・解答例のみ正解。

問7

基準 配点：4点

■形式上の不備

- ・（ ）の有無は問わない。

■解答例

(才)

■採点方法

- ・解答例のみ正解。